

「私達は工事中～Under construction」 (2023.5.21)

「この変わらざる恵みのうちに、聖霊は我らを潔め、
義の実を結ばしめ、その御業を成就したまふ。」(日本キリスト教団信仰告白 3条後半)

ここには聖霊が「その御業を成就したまふ」という希望が告白されています。それは神学的には聖化、御子に似た者になるということです。いや～それは無理だ、と思うかもしれませんが、私が自分の力で、というのではない、聖霊が主語なのです。

まず注目したいのは「この変わらざる恵みのうちに」という言葉です。罪を赦され、義とされることは変わらざる恵みなのです。たとえ私達が罪・過ちを犯しても、神様は「もう、子でもないし親でもない！」と縁を切ることにはなさない。どこまでも神に愛されている子として扱われるのです。

次に、「聖霊は我らを潔め、」です。イエス様の十字架の血潮によって、私たちは雪よりも白くされます。聖霊は、私達に罪を悟らせ、そして十字架のもとに導いてくれます。十字架の前に跪き、「どうぞ十字架の光で私を照らし、貫き、潔くしてください。」と祈る時、潔められます。

続けて聖霊は「義の実」を結ばせてくれます。「義が生み出す果実」とは何でしょうか。義という漢字は、我の上に羊がいる、つまり、キリストを着ているということです。もし、自分をそのように神と正しい関係にある存在だと心底受け入れるならば、そこから何が生み出されるか？揺るがない平安であり、喜びと感謝でしょう。そして、神様が愛して止まない隣人への愛でしょう。

こうして、聖霊は私たちを導いて、御子に似た者に造り変えて下さるのです。このように、私が神様と正しい関係になれば、私自身の存在がその関係に相応しく変わるように、聖霊が働かれるのです。関係が変われば存在も変わるのです。

でも完成は御子が現れる時です。今は未完成の状態です。工事中という言葉が出来るかと思えます。工事中であれば、騒音も出ればほこりも出る。悪臭も出ればゴミも出る。だから互いに愛し合っていくことです。それが最後の晩餐でイエス様が「わたしの掟」(ヨハネ 15:12)として強く教えられたこと、言ってみれば遺言です。立派な建物に仕上がる日のことを思い、互いに愛し合っていきたい。「共に苦しみ、共に喜ぶ教会」はこうして形成され、成長すると信じます。

